



第2回令和3年度地域福祉推進会議

今年度の締めくくりとなる第2回会議では、各所属が実施している地域福祉推進とかかわりの深い事業(関連事業)について、振り返ったものを持ち寄り、成果と課題を共有しながら、令和4年度に向け実践を見据えた議論をしました。

会議概要

日 時：令和4年3月10日(木) 9:30~11:40

場 所：はつかいち文化ホールウッドワンさくらびあ1階リハースル室

参加者：20名

アドバイザー：地域共生専門部会 手島 洋 副部長
(県立広島大学 講師)



令和3年度地域福祉推進会議の振り返り【福祉総務課】

令和3年度は右図のとおり、「第3期地域福祉計画」に基づき、地域福祉推進に向けて参加部署がときに単独で、ときに連携して「暮らしの質を高める取組(施策)を実践、改善していく」ことを目指して、取り組みました。

時期	項目	内容
7月21日(水)	第1回地域福祉推進会議	✓ 第3期地域福祉計画とは「第3期計画」と各所属が実施する地形との関連や接点を考える
8月~	「関連事業」の選定	✓ 地域福祉の推進と関わりの事業を各所属で選定
9月	「関連事業一覧」の共有	✓ 事業の目指したい姿、市の取組、期待したい地域の取組の共有
11月~12月	「関連事業」に係る進捗状況確認、共有	✓ 着手していること、連携相手、把握している地域の動きなど共有
3月10日(木)	第2回地域福祉推進会議	✓ 「関連事業」の成果と課題

【グループワーク】「地域福祉の推進に向けた関連事業の成果と課題」

【福祉総務課】

4つのグループに分かれ、各所属の関連事業について①達成できたこと、できつつあること(目指したい姿への達成状況)②不十分だったこと、もう少しこうすれば良かったこと(令和4年度に向けて改善点)③連携したい主体、方法)を共有し、気づきと連携して取り組むとよいこと(誰と、どうやって)について、話し合いました。

A 【気づき】・企画(事業)の意図や目的を参加者が理解して参加出来ているか、同じ方向を向いているか確認しながら実施することは大切である。

- ・講師を地域の先生にお願いすることで、参加者とのつながりをつくることにもつながっている。

【連携するとよいこと】

- ・「ゲートキーパー養成事業、啓発事業」、「廿日市市地域福祉推進業務」の取組は、ターゲットは若者であるという共通点があった。ただし、10~20歳代なのか、40~50歳代なのかで、内容はかなり違う。お互いの情報を共有し、ターゲットを分析することで新たな連携の可能性が分かってくるのではないかな。

B 【気づき】・担当課だけでは知り得ない情報を他課との対話の中で入手することが出来る。

- ・「自主運行バス運営事業」について、福祉部局、市社協と情報交換が出来てよかった。

【連携するとよいこと】

- ・公共交通と福祉輸送は、相互連携が必要。市民の声、移動の実態を把握・分析するとともに、実施に向け話し合う場合はそれぞれの地区であることから、市社協の生活支援コーディネーターが活躍してくれるとよい。
- ・「ゲートキーパー養成事業、啓発事業」は、市教育委員会と連携し、教員の情報(関心・テーマ)を把握することで広がりを持たせることができるのではないかな。

C **【気づき】**・「町内会等加入促進事業」、「子ども・子育て支援事業計画（地域と連携した見守り活動等の推進）」、「廿日市市地域福祉推進業務」、各事業の取組を聞いて、**地域のつながりを強化することは、暮らしの安心につながることを再認識した。**

- ・「ひきこもり支援ネットワーク構築事業」では、ひきこもりの人の**特技、趣味等をリスト化することで、当事者が活躍できる方法づくりにつながる。**

【連携するとよいこと】

- ・「勤労者福祉貸付金事業」は、福祉部局と連携し、生活資金に係る融資制度を**対象者別に一覧表にすることで、市民が融資制度を使用しやすくなる。**

D **【気づき】**・子どもの生活環境で、養育課題や貧困・発達など複合的な要因によって不足がある部分を支援しながら、子どもが成長し自立する道筋をサポートしている。**保護者や子どもの困りごとに早く気づき、早期に支援に関わることが重要。**

- ・行政が管轄する制度は、出生から学童期、成人、介護まで支援できるようになっているので、支援の行き届いていない人を救ってあげたいと思う。

【連携するとよいこと】

- ・出生時に気になる子どもを**継続的に実態把握できるように関係部局で情報共有し、対象者への支援内容や方法を協力・分担して実施できたらよい。**



まとめ

【保健福祉審議会地域共生専門部会 手島 洋 副部会長】

地域福祉推進会議とは、関係部署が**地域福祉計画の進捗状況についての評価、改善を行う場**です。地域福祉とは、「**個別の課題**」と「**地域全体の課題**」を対象としています。

行政は、制度や施策を管轄し、市社協は地域福祉を推進する役割を持ちます。**全体でどう連携するかが大切です。**縦割りの制度をうまく使いこなせない、複合的な課題を抱えた人や世帯に対しては、**多様な主体が協働し、コーディネートすることが必要**となります。

今日、参加者は**他課の事業・制度等お互いに知ること・関心を持つことが大切だと分かった**と思います。課題を図にすると、いびつな形になります(図1)。行政が担っている事業は、**対象や条件に縛られたものであり、全て解決するにはこれらだけでは充足できない「すきま」が生まれます。**このすきまを埋めるのが、**市社協をはじめ、多様な主体が行う「活動」**なのです。

市役所の関係部署及び市社会福祉協議会が参加し、関係部署が**地域福祉の推進に向け、議論を行**ことができる**今日のよう**な会議を開催する市は**あまりなく、素晴らしい取組**だと思います。

【参加者の感想】※一部抜粋

・他部局の職員と情報共有し、**担当事業をより効果的に推進することができるのでないかと可能性が見えた会議**だった。

・事業の実施にあたり、連携すべき部署、団体について**自分が考えているもの以上に多くあることに気づいた。**

・日頃、業務連携会議等の既存会議で顔を合わせるメンバーだったので、**具体的な意見交換で、連携するまでの課題を共有することができてよかった。**

・市社会福祉協議会の**生活支援コーディネーターの動きの共有が、鍵になる**ことを改めて再確認した。

・地域福祉について考えるよいワークショップだった。これからも、**全ての人に支援が行き届くよう、救うことができる廿日市市にしていきたい。**

・地域福祉の推進において、**事業の選定から成果まで進めてみて、他課の動きも勉強になった。**あとは、**ここで出たものをどう実践に落とし込むか、工夫をしていきたい。**

・**顔の見える関係づくりが大切**だと思う。連携の場があることで、いざという時に力が発揮できる。

・**他課の事業を知ること、関心を持つことは仕事をする上でも感じていること**なので、今後も**意識していきたい。**

・他課の方に言われて初めて気づくことも多くあった。このような場が**継続的に開催されることを希望**したい。

